
新しい年を迎えて

新しい年が、明るく平和な一年でありますようお祈り申し上げます。

2011年3月に発生した東日本大震災は、我が国に甚大な被害をもたらしましたが、多くの人、国、団体が力を合わせて、被災地の復興に向け歩み始めています。一方で、この震災に伴う電力不足の顕在化や原子力発電所の事故は、社会・経済のあり方、私たちのライフスタイルの有り様を問うことにもなりました。地熱発電や風力発電、太陽光発電などの再生可能エネルギーへの注目と、節電や省エネルギーの取組みが加速し、また、環境調和型の安全・安心な新しい経済社会の実現に対する期待がさらに高まりを見せた一年でありました。

2011年、当社は、これまでの純粋持株会社制を見直し、事業会社として、新「富士電機」をスタートさせ、意思決定の迅速化と執行責任の明確化を図るとともに、マーケティ

ング力、営業力、ものづくり力を強化する経営体制を構築しました。研究開発体制も一新し、市場で求められる製品を提供するためのお客様視点を持ち、基礎的・基盤的研究から大規模かつ戦略的な研究開発までをより一体化して推進する体制とし、研究開発の効率化・最適化を図っております。

こうした体制整備と合わせ、2011年度を起点とする10年ビジョンならびに3ヵ年ローリングプランを策定しました。「日本の富士電機から世界の富士電機へ」「エネルギー・環境事業への注力」を経営方針の柱として、売上高を2015年度に1兆円とする目標を計画しました。

当社の「エネルギー・環境事業」は、創業以来培ってきた、電気を自在に操る「パワーエレクトロニクス技術」を活用したパワー半導体、パワーエレクトロニクス機器、受配電・制御機器といったキーコンポーネントをコア



とし、環境にやさしいエネルギーを創る「創エネルギー」、エネルギーの効率利用を図る「省エネルギー」、そして、創エネルギーと省エネルギーをつなぐ「エネルギーマネジメント」で構成されます。私たちが持っているポテンシャルを世界で展開し、自然と調和した次世代の街づくりに貢献してまいります。

とりわけ、基盤であるパワーエレクトロニクス技術では、シリコン (Si) の次世代を担う炭化けい素 (SiC) などの素材のパワーデバイス開発に注力しており、SiC デバイスを適用したインバータやパワーコンディショナで、シリコンでは実現できない低損失や小型化を実証しました。このようなパワー半導体とパワーエレクトロニクス回路技術のシナジーを武器にエネルギーの効率利用を図る製品を開発してまいります。

さらに、エネルギーの有効活用を目的にスマートコミュニティの実現に向けた動きが活

発化しています。当社では、エネルギー需給を最適化するエネルギーマネジメントシステム (EMS) を開発し、それを活用し北九州市などのスマートコミュニティ実証事業に取り組んでおります。

また、エネルギー・環境市場で高い伸びが見込まれるアジア・中国を中心にグローバル展開し、現地部材の適用、現地人材の確保・育成の強化など、それぞれの市場に合った最適な方法での製品開発に取り組んでおります。

富士電機は、社会のニーズを的確に把握しながら、ものづくりと一体となった技術開発にいっそう努め、エネルギー・環境事業を通じて資源循環型社会の実現に貢献していく所存です。皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

取締役社長

北澤通宏



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。